

# お母さん、ひとりで悩まないで 「母の会」10年の活動から



演者  
NPO法人  
アレルギーを考える母の会  
園部 まり子 代表

## アレルギー疾患の患者さんと 家族の悩みは深刻

「アレルギーを考える母の会」は1999年8月に発足し、8年間の任意団体としての活動を経て、2008年4月、特定非営利活動(NPO)法人となった(表1)。本会には1年間に約400名から2,000件近くの相談が寄せられる。健康を回復するための助言・支援を行い、相談から浮かぶ課題の解決に取り組むことを活動の基本にしている。

2003年夏に神奈川県内で実施した大規模アンケート調査によると、アレルギー患者さんはくしゃみ・鼻水・鼻づまりや結膜炎だけでなく、喘鳴、果物による喉の痛み、特定の食べ物による痒みといった多彩な症状に悩まされており、アレルギー疾患と診断された患者さんの3人に2人が、治療を受けても症状が好転しなかった経験を持ち、そのうちの3人に1人が民間療法を試したことがあるなど、患者さんやご家族の悩みは深刻であることが明らかとなった。

表1 「アレルギーを考える母の会」発足の経緯

### 「母の会」は1999年、任意団体として発足

「母の会」は(財)日本アレルギー協会の奥田穂会長に「アレルギー克服の未来に向けて」との指針をいただき1999年8月、横浜でアレルギーっ子のお母さん10人で発足。

### 2008年4月に登記、NPOとして新出発

8年間の任意団体の活動を経て、患者の視点から社会的な責任を担いたいとの思いで、2008年4月、特定非営利活動(NPO)法人に。

## 患者さんの相談を通じて 見えてきたこと

「母の会」に寄せられた相談から、喘息と言われて苦しんできた子供のなかには、「副鼻腔炎」を合併している子供が少なくないことがわかる。先生方には、副鼻腔炎の合併を見逃さない、症状が改善しない場合にはアレルギー専門医と連携して診断や治療方針を見直すようお願いしたい。

さらに成人患者さんからの相談を通じて、患者さんにも社会生

活があり連日の通院が必要な治療を勧められても継続は難しい、薬物療法への理解不足からアドヒアランスが低下してしまう、処方薬の副作用が治療継続の障害となる、疾患や治療について患者さんの理解が不足しているといった課題が明らかになった。

また、薬剤の不適切な使用によって様々な障害を引き起こした事例もあり、先生方には最新のガイドラインに則った治療、眠気に配慮した治療、花粉症に合併した口腔アレルギー症候群(OAS)への適切な対応などが必要であることをお伝えしたい(表2)。

一方、アレルギー科の専門医を受診した患者さんを対象としたアンケート調査では、病気や治療法について丁寧に、患者さんが納得できるまで説明してもらい、親の精神面にまで配慮した親身な診療が受けられたと高い評価が得られている。日常生活でも親子ともによく眠れるようになったとの回答が9割を占めた。

アレルギー疾患の診療では、ガイドラインに則った標準治療がどの医療機関でも行われているとは言えず、そこに医療不信のひとつ的原因があると考えている。この課題を解決するために「母の会」は、ガイドラインを共通の基盤として専門医と連携しながら「患者さんも賢く、治療を選べる目を持つこと」で、患者さんはもちろんサポートする側の保健・教育・行政関係者など、あらゆる人たちの正しい理解と対応を促していくたい。

表2 不適切な治療事例と先生方へ伝えたいこと

### 先生方にお伝えしたいこと

- 最新の「治療ガイドライン」の普及が遅れている。
- 「薬で眠気が襲うなどしたら、遠慮しないで言ってください。  
あなたに合う薬を探しましょう。」と声をかけてあげて。
- 花粉症と併発した口腔アレルギー症候群(OAS)に適切な対応を。